

## 「最初の一步」

～第71回“社会を明るくする運動”に当たって～

昨年引き続き、新型コロナウイルス感染症が世界中で広がりを見せ、人々の行動が制限される中で、保護司の皆様をはじめ、多くの方々が更生保護に御尽力していただいていることに、心から感謝申し上げます。

“社会を明るくする運動”と聞いて、何をすればいいか迷う人も多いと思います。

昨年の“社会を明るくする運動”作文コンテスト中学生の部で佐賀県最優秀賞を獲得した、佐賀市立金泉中学校一年生の小林翔（しょう）さんの作文のタイトルは、「ちょっとずつ」でした。

社会全体だと想像しづらいので、まずは身近なことから考えたのだそうです。クラスで友達を思いやる心を持ち、相手の立場になり行動すること。そこから範囲を広げて、地域で人との交流を大切に、進んで手助けをすること。小さなことからちょっとずつ実行し、お互いに支え合う関係になることが、「クラス」や「地域」を明るくし、そして「社会」を明るくすることにつながると思ったそうです。

小林さんのように、身近なことに置き換えてみたら、人のためや社会のために、意外とできることが多いことに気づくのではないのでしょうか。

例えば、近所に一人暮らしのお年寄りがいたら、挨拶をしてみる。——そのちょっとした気遣いが、コロナ禍での不安を和らげたり、犯罪に巻き込まれるのを防ぐことにつながるかもしれません。

また、立ち直りを支援するSNSのメッセージをフォローしてみる。——そのことが、犯罪や非行をした人たちの立ち直りを支え合う素晴らしいコミュニティづくりにつながるかもしれません。

一人ひとりが相手を思いやる心をもって行動した“ちょっとずつ”が、いつのまにか犯罪のない明るい地域社会につながっていくのだと思います。

今年も“社会を明るくする運動”の強調月間が始まります。

一人では変えられないことも、多くの人々の気持ちが集まれば変えることができます。皆様の活動によって、新たな一步を踏み出そうとする人々をあたたく見守り支える地域社会がつくられます。

小さなことから“ちょっとずつ”。人と人が慈しみ合える佐賀県として、支え合い（愛）、一人ひとりの想いに寄り添いながら、誰もが笑顔で暮らせる地域をみんなで作っていきましょう。

令和3年6月18日

第71回“社会を明るくする運動”  
佐賀県推進委員会委員長

佐賀県知事 山口 祥義

